

生き様は、死に様。寿命の長さではなく、その質が大事

蝉の鳴き声は、日本の夏の風物詩だ。

「やつと地上に顔を出したのに、わずか1週間しかその生命を生かすことが出来ない蝉がかわいそうだ。」こう思ったのは私だけではないでしょう。

地上に出てからの1週間、鳴き続ける蝉の声が、あたかも「まだまだ生きたい！」という蝉の心からなる悲鳴の様に聞こえるのも、そんな蝉の姿が切なく感じるからだろう。

ただ、蝉の一生は1週間だけとは考えない方がいい。生物学的には、蝉が鳴くのはオスがメスを呼び寄せ、いわゆる「配偶行動」だそう。だとしたらなおのこと、地上に姿を現し1週間しか生きられない蝉が切ないと思うのはよそう。

だいたい地上に顔を出す前に、地中では7年もの間、その《時》を待っているのだ。何の時から言えば、地上に出て一所懸命に1週間生き切るパワーを充電しているとは考えら

れないだろうか？そして、自然の摂理に合わせて地上に出たならば、持てる全精力をかけて、彼らは配偶者を探し、子孫繁栄を最後に、命のバトンの後世に残して役割を全うするのである。1週間の壮絶なハイライトのために、7年間もの地中生活があり、地中での生活は、その為の準備期間という事になるのではないだろうか？

私達は往々にして、表面上の物事に目を奪われ、その奥底にある目に見えない部分には意識がいかない生き物らしい。

仏教の悟りを私達に遺されたインドのお釈迦様は、6年間の苦行（修行）により、悟りを得たと言われる。しかし、私達が信仰している『法華経』には、お釈迦様の修行期間は、歴史に伝えられている6年間の期間だけで悟ったのではなく、誕生以前の前世（輪廻転生）生まれ変わり）に及び、その期間も三阿僧祇劫（無数）とされているのだ。その無限の修行の後、この娑婆世界（現世）の衆生救済（人間の心を安穩にし、平和な生活を送るため）に姿を現されたと言われている。

つまり何事においても、表面に出るよりはるかに長い準備の時間があり、

その準備期間こそ大切な時間である、ということだ。「（若い時の）苦労は買ってでもしろ」の言葉通り、表面に出る前の準備期間において、その大切な努力・成長の時間を無意に過ごしてしまうと、それなりのもので終わってしまう事になるだろう。

“ローマは1日にしてならず”：何事もはじめの一步があるという事だ。

私達は「いま」と「ここ」にしか存在しない。つまり私達の人生は、「今」という時間と、「ここ」という空間の中で存在している。

いま世間では「100年に一度の大不況」と謳われている。ならば、私達是否応なしに努力・変革・成長などが求められる事になる。現代は求めるとねばならぬ時代と言えよう。なぜなら、意識しなければ生きてはいけなくなるからだ。

何事も考え方1つだ。100年に1度の大不況と言われる大変な時代を生きている私達は、ある意味「大当たり」の、「大ラッキー時代」を生きていると考えると、考えられないだろうか？苦労をしなれば、幸福を知る事は出来ない。知識として、頭で理解していても、体験・

経験を積み重ねれば、本当の意味で理解する事は出来ない。

大不況をして、人生の辛苦を味わう事が出来るのだ。できれば、苦勞なんて誰もしたくない。ただ、苦勞しなければ、本当の意味で幸福を理解する事は出来ない。今は、誰も彼も辛抱の時を過ごしているのだ。その辛抱の中にこそ、人生の醍醐味があるのだ。

『遺（のこ）すべき3つの遺産』というものがある。上・中・下にその項目を分けるなら、下は「お金・財産」・中は「仕事（会社組織・技術など）そして何よりも一番大きな上の遺産は「人間（人材・心を伝承された後継者）」と言われる。

地中で7年間、地上に出てからは7日間の生命を、一所懸命に生き切るあの蝉達は、私達の心に夏の風情を刻み、自らの一生を子孫繁栄という形で、上の遺産を見事に全うしていくのだ。まさに上の遺産「子孫へ生命のバトン」を遺して逝くのである。今夏、「ミシン、ミシン」と聞こえてくる蝉の鳴き声は、「頑張れ、がんばれ」と、私達への応援歌の様にも聞こえてくるかもしれない。

夏本番の今月。蟬の鳴き声を耳にしたら、思い出して頂きたい、7年間の充電期間をシッカリ過ごしてきて、生き様という有終の美であることを。そして私達も、有終の美を飾れる様な日々を過ごしていきたいものだ。『生き様は、死に様である』事を肝に銘じよう。

### 【大荒行3度目の挑戦に向けて】

さて、ここで告知をしたいと思えます。ご存じの方もおいでだと思いますが、わたくし寛敬は、今年の十一月一日より、明年二月十日までの百日間、千葉県は中山法華経寺にて、誰が言ったか「世界三大荒修行」と称される、荒修行に入行させていたたく事になりました。

丑三つ時の午前2時に起床し、前3時・前6時・前9時・正午・后3時・后6時・后十一の1日7回の水行。消灯0時で睡眠時間がたったの2時間。朝夕2度の食事（基本的に重湯と味噌汁のみ）。もちろん間食やおやつなんてものはありません。それぞれが各役職に就いて職務を全うしながら、写経や読経三昧。私を

含め修行してる僧侶達が皆、身心共に余裕が無くなり、意識は朦朧とする中、異体同心（体は別々だが、心を一つに）修行生活を送るのです。そんなギリギリの生活ですから、世間では考えられない様な小さな事でもみ合いが勃発します。生きる為に必死ですから、それはもう表現の仕様がなくらい凄まじい空気なのです…。まさに人間の縮図がそこに現れるのです。そんな中でも自らを抑制し、協力して修行生活を送る事が、何よりの修行と言えるかもしれませぬ。

荒行についての詳細は次号に回す事にして、ここでは『大黒様の魂入れ』についてご案内申し上げます。

真成寺では毎年6月の第4日曜日、本堂にて『大黒祭』が盛大に執り行われておりますが、この度は皆様の升大黒様をお預かりし、荒行堂にお連れして、百日の修行中、百名以上の修行僧達と共に読経祈願をさせて戴こうと思っております。つきましては、修行中の特別祈願の申込を受付させて頂きま

す。詳細につきましては、真成寺へご一報下さい。『特別祈願申込書』をお渡し致します。また、この機会に新たに『升大黒様』

を求められる方も多数おいでになられます。『大黒天申込書』も併せてご利用しております。

一生に1度しかない第3行の『大黒相伝』です。皆様の益々の家内安全・商売繁盛・心願成就などの御祈願を、心を込めてさせて頂きま

す。※大黒様についての詳細は、次号に掲載させていただきます。

合掌 副住職 谷川寛敬

## 「しろちゃんクイズ」



今月も漢字です。お分かりですか？

問一 黄粉

問二 皿鉢料理

六月の答え

問一 かげろう 問二 のわき  
問三 なたねづゆ 問四 さみだれ

## 私達の宝物

「人生ハンド仏句」も先月号で百号達成したのですが、それを受けて嬉しいお手紙が届きました。（富山市在住H氏）

その方は、二十三号からの愛読者で、毎月届くのをお待ちになっておられます。

住職、副住職のコーナーは、繰り返し読まれる書物です。ご法話ですと一回聞けば終わりですよね。でもハンド仏句ですと繰り返し読むことが出来ます。そして、「人としての心」を学び自分磨きをしておられます。まさに私達の思いが、ここに生かされていると感激致しました。

そして「人生ハンド仏句」を私の「心の宝物」とも言ってお下さいました。それを読んだ私達は逆に、このお手紙が「私達の宝物」になりました。

本当に有り難う御座いました。微力ながら更に頑張つて行こうとパワーが出て参りました。これからも応援宜しくお願い致します。頑張るぞ〜〜！